花巻市博物館だより

目次／P1 花巻城展／P2-3 活動レポート［GW 期間中の体験学習・出前授業～地域の遺跡から学ぶ～］／P4-5 テーマ展：花巻城展／P6 展覧会レポート［企画展 没後 50 年 多田等観ーチベットに捧げた人生と西域への夢］／P7 館長コラム・行事予定・インフォメーション／P8 花博コレクション

2017.8
No. 52

花鳥図襖絵（部分）個人蔵

花巻の歴史や文化は花巻城とともにあったと言っても過言ではありません。花巻城は、現在の花巻市を含む稗貫・和賀地方を政治・経済・文化の面で統括してきました。

奥羽仕置に際して東北に下向していた浅野長政は、南部利直に「要地のため、有能の士を配すべし」と花巻城の重要性を説きます。伊達仙台領との境に位置した花巻城には、北氏が城代として配置されました。さらには、後に利直は子息政直を城主とします。南部家にとって花巻城は政治的・軍事的に重要な場所であったことは間違いありません。それだけではなく、花巻は北上川舟運を活用できることから経済の要衝であり、稗貫・和賀という穀倉地帯を抱えた盛岡藩の米蔵でもあったのです。そして、政治・経済の要所であった花巻には、たくさんの人々と文化が流入し発展してきました。

今回のテーマ展では、中世から近世への流れの中で、花巻城の形成と存在について紹介します。

活動レポート1

ＧＷ期間中の体験学習

親子で思い出づくり

花巻市博物館では、たくさんの方に花巻の歴史や昔の暮らしなどに触れてもらうため、年間を通して様々な体験講座を開催しています。４月29日（土）～5月7日（日）までの大型連休期間中には、「勾玉つくり」、「琥珀玉つくり」、「縄文弓矢･火起こし体験」、「縄文あんぎん編み体験」の４つの体験講座を実施し、４日間で大人 42 名、子供 51 名、計 93 名の方にご参加いただきました。

体験講座では、子供だけでなく、大人の参加者も多く、各回ともに幅広い年代の方が一緒になって和気藹々（わきあいあい）とした雰囲気の中での開催となりました。

今回は、体験講座の中でも常に不動の人気を誇る「勾玉つくり」について紹介したいと思います。勾玉は、縄文時代から奈良時代を中心に使われていたアクセサリーの一つです。昔の人々は、お洒落としてではなく、権威の象徴や祭祀具として扱っていました。花巻市内では、湯口地区の熊堂古墳群という奈良時代の史跡から、メノウでつくられた勾玉が複数発見されています。

勾玉つくりでは、チョークと同じ原料でできた滑石という柔らかい石を材料としています。そして、滑石にマジックペンでデザインを描き、紙やすりで形を整えていきます。さらに水をつけながら、耐水ペーパーで磨き上げると、ツルツルでピカピカの勾玉が出来上がります。単純な作業ですが、かなり根気が要ります。参加した子供たちからは、「手がしびれた」という声も聞こえてきます。その一方で「こうしたら、うまくできる!」と子供自身が工夫をして取り組んでいる姿もみられました。最後に、青・赤・紫・緑などの蛍光ペンで色を塗れば、美しく綺麗な勾玉の完成です。

製作時間は1時間 30 分で少々時間がかかりますが、参加者は丹精こめて作った勾玉を首にかけて、満足気に帰って行きます。

今回は、「勾玉つくり」の紹介をしましたが、博物館では、この他にさまざまな体験講座をご用意しております。今年度は、新たに「鎧（よろい）を着てみよう!」を追加しました。これは、戦国時代以降のホンモノの鎧を着用して、戦国時代を学習するものです。ぜひ、ご参加いただきたいと思います。

博物館へのお越しを心よりお待ちしております。

（学芸調査員　因幡敬宏）

納得の出来に笑顔も満開

活動レポート2

出前授業 ～地域の遺跡から学ぶ～

クイズの質問に答える児童

花巻市博物館では、博物館のもつ教育機能を学校教育の中で活用するため、「博物館と学校教育の連携事業（博・学連携事業）」を推進しています。

この一環として、博物館では市内の小中学校に出かけ授業をする「出前授業」を実施しています。今回は、５月31日に矢沢小学校で行った授業の様子を報告します。

矢沢小学校では、６年生を対象として「縄文時代の暮らし」についての授業を行いました。

矢沢小学校が立地する一帯は、久田野（きゅうでんの）遺跡という縄文時代(約 6,000 ～ 4,000 年前）の遺跡が広がっています。また、その西方には上台Ⅰ（うわだいいち）遺跡という縄文時代（約 9,600 年前）の遺跡があります。この2遺跡から発見されたものは、花巻市博物館常設展示室の考古展示コーナーの主要な展示資料となっています。

そこで今回は、矢沢小学校周辺にある上台Ⅰ遺跡と久田野遺跡で発見されたものから、縄文時代の暮らしについて学び、地域の歴史への関心を深めるという目的で行いました。

授業では、２遺跡から発見された竪穴住居跡や縄文土器、石器、土偶についてパワーポイントで紹介し、縄文時代の人々の住まいや、様々な石器や土器、土偶はどのように使われていたのかを説明しました。

また、縄文時代の道具の中には現代の暮らしの道具のルーツとなるものもあることから、現代の道具に例えると何に当てはまるかを2択のクイズで質問しました。児童たちは、授業を聞いているだけでなく、クイズを解くことで楽しみながら学ぶことができたようです。

最後に、博物館から持ってきた、実際に上台Ⅰ遺跡と久田野遺跡から出土した縄文土器、石器、土偶などを見せました。児童は、矢じりがとても小さいことに驚いたりしていました。

普段の暮らしの中で気づくことは少ないですが、私たちの足元には、大昔の人々の生活の痕跡が眠っています。身近に遺跡があることを知らない児童が多くいましたが、この授業によって、教科書にあった歴史が自分の暮らす地域でも実際に起きていたと知る機会になり、歴史をより身近に感じることができたようです。

実物資料に見入る児童

花巻市博物館では、今回のような出前授業は現在、「昔の道具と暮らし」と「花巻空襲」を実施しています。そして新たに「戦国時代の武具」の授業を作成しています。また、出前の講座や体験学習、縄文土器片セットの貸し出しも行っており、今後も学校等教育機関との連携を図っていきたいと考えています。

（学芸員　高橋静歩）

花巻城展

期間：平成29年9月16日(土)～11月12日(日)

花鳥図襖絵（部分）個人蔵

■はじめに

一般的に「城」とは、人や人の財産を守って「戦う」ための施設、つまり軍事的な施設です。日本の城の完成形ともいえる近世城郭は、本丸を中心に多くの曲輪（城の区画）を設けた複雑な構造、広い堀と石垣や土塁による高い塁線を中心とした防御施設であり、天守・櫓・石垣など日本独特の建造物を特徴としています。

■花巻城の成立

花巻城の成立について知るためには、南部氏と豊臣政権の関係について知らなければなりません。天正 18 年（1590）、豊臣秀吉は小田原の北条氏を滅すと、奥羽仕置のために小田原を出立します。小田原攻めに参加しなかった和賀氏・稗貫氏らは改易（所領没収）されますが、秀吉に従った南部信直は所領を安堵され、豊臣大名としての存在を公認されることになります。時代は下剋上などの風潮に特徴づけられる戦国乱世から、天下人による統治へと移行し、秀吉の天下統一が成立していました。南部信直の行動は、まさに時代の趨勢を読み取っていたと言えます。

南部信直が仕置軍の浅野長政を鳥谷ヶ崎城で見送る際、「花巻は要地であるため、有能な家臣を配置するように」と助言され、北氏が鳥谷ヶ崎城の城代をつとめることとなりました。北秀愛は天正 19 年の冬に鳥谷ヶ崎城を花巻城と改称しました。

■南部政直と北信愛（松斎）

慶長3年（1598）秀愛の急死により秀愛の父である北信愛が花巻城代となります。信愛は花巻城の大改修と城下町の形成に尽力しました。本丸・二の丸・三の丸、堀と土塁、御門、本丸御殿と御役屋などの縄張りを行い、慶長 14 年ころから本格的に普請（工事）を行いました。

信愛は慶長 18 年に没し雄山寺に葬られましたが、南部利直の第二子である南部政直がその後を引き継いで 2 万石の花巻城主となりました。政直は慶長 19 年には利直の命により二子城の大手門を円城寺坂に建てるなど花巻城の改修整備を成し遂げました。

寛永元年（1624）、花巻城において政直は急逝しました。各史料では柏山明助も同時に死んだと書かれており、病死とされているものがほとんどです。しかし、宗青寺に残されている史料によれば、南部家は明助が伊達政宗と内通しているのではないかと疑いを持っており、花巻城にて毒殺を画策したというのです。政直はこの際に毒見役を引き受け死亡したといいます。その後、花巻城には城主が置かれることはなく、郡代がその役目を担いました。

花巻城の搦手門として移築された円城寺門（鳥谷崎神社、2016 年、小学生のフィールドワークの際に撮影）

■給人たちの生活 ― 三の丸の世界

花巻御給人とは、直接花巻城の御蔵から禄を与えられたものをいいます。北松斎・南部政直の家臣や、新たに新田を開いて与力となったものなどで、南部氏譜代の家臣ではなく新たに採用された外様の武士が多くいました。花巻は仙台藩との境にあたり、有事の際は真っ先に出陣しなければなりませんでした。そのため、新参の諸士が配置されたのです。また、花巻は藩境に位置し、江戸方面からの文化が陸路で真っ先に入ってくる文化の先進地帯でもありました。そのため、花巻御給人には独特の文化的気質があり、明治以降にも多くの人材を輩出しました。

三の丸で出土した食器類（花巻市総合文化財センター蔵）

■二の丸の建築物と役割

二の丸には南北ふたつの御役屋（城代屋敷）のほか、稗貫・和賀二郡内から集められた年貢米を保管する藩の御蔵、武芸の稽古場、厩や馬場、鐘楼、作事所など、さまざまな役割の施設が配置されていました。現在、花巻市役所付近に移築されている鐘楼も、当時は二の丸にあり、花巻小学校のグラウンドあたりは馬場や稽古場となっていました。武徳殿のあるところには南御蔵があり、平成 28 年度には花巻市教育委員会による南御蔵脇の発掘調査が行われました。それによると炭化物や焼土粒の分布が確認され、火災にあったことがわかります。二の丸が延焼した火災は、享保 6 年の花巻大火が知られています。

花巻之図（嘉永 3 年）個人蔵

きらびやかな御乗物（館蔵）

■いざ、本丸！ ― 本丸御殿のようす

本丸には、城代以下が執務する詰所と、藩主が訪れた時に利用する本丸御殿がありました。ほとんどの絵図に御殿は描かれていませんでしたが、御殿の様子は限られた給人らが知るところでした。花巻市内の旧家には御殿絵図が伝わっており、御居間（松の間）、菊の間、桐の間のほか、湯殿や料理の間といった生活スペースと城代席などの執務空間とに分かれていたことがよくわかります。

（学芸員　小田桐睦弥）

関連行事

講演会「中世稗貫の城館と鳥谷崎城」（聴講無料）
日 時　9月16日（土）13時30分から15時
場 所　花巻市博物館　講座・体験学習室
講 師　盛岡市遺跡の学び館 文化財副主幹　室野秀文氏

展示解説会（入館料必要）
日 時　9月16日（土）15時30分から16時
10月8日（日）10時から10時30分
11月11日（土）10時から10時30分
場 所　花巻市博物館　企画展示室

甲冑着用体験「鎧を着てみよう！」
（要事前申込、体験料無料）
日 時　10月8日（日）13時30分から15時（予定）
対 象　小学生・中学生

企画展

好評開催中

没後50年 多田等観

ーチベットに捧げた人生と西域への夢ー

8月20日(日)まで開催

明治23(1890)年に、秋田市西船寺で生まれた多田等観は、大正時代にダライ・ラマ13世の庇護を受けながらチベットで仏教の修行を行い、帰国後は、膨大な請来資料の研究に邁進しました。

戦争が激化すると、等観がチベットから請来した資料は、戦禍を逃れて弟・義蔵が住職を務める花巻市内の光徳寺に運ばれました。その折、等観は光徳寺の檀家衆の勧めにより花巻郊外の円万寺観音堂堂守となり、戦後も度々花巻を訪れるようになります。花巻の人々との交流は等観が亡くなるまで続きました。

開催中の展覧会は、没後50年という節目を迎え、多くの多田等観コレクションはもとより、花巻では公開されることが少なかった秋田県立博物館所蔵の等観ゆかりの資料や、花巻では初公開となる大谷探検隊の西域の将来品など、チベットに捧げた人生を回顧する内容になっています。

展示の様子

博物館へ足をお運びいただき、チベット生活の様子や花巻の人々が等観に寄せた思いなどを感じ取っていただきたいと思います。　（学芸員　小原伸博）

展示の様子

展示の様子

◆郷土芸能特別演舞

円万寺神楽（岩手県指定無形民俗文化財）

日 時：8月20日（日）13：30～14：20
場 所：花巻市博物館　講座体験室
演 目：狂言「狐とり」、権現舞

花巻市（膝立字観音山）地区に伝承される神楽で、もと同地の円万寺を根拠にした山伏修験者たちが伝えたものです。

多田等観も円万寺神楽の演舞を見ています。また、神楽の衣装のアドバイスをしている手紙も残っており、神楽のことを気に掛けていたようです。

躍動感や迫力あふれる演舞をお楽しみいただけますので、ぜひご来館ください。

館長コラム　西天取経（さいてんしゅきょう）

今年の企画展は、「没後50年　多田等観―チベットに捧げた人生と西域への夢―」と題し、チベット学の世界的権威・多田等観の生涯と花巻との交流を紹介する。多田等観は、ダライラマ13世の庇護の基、チベットで十年に渡り修行を続け、外国人として初めて最高学位ゲシェー（仏教博士）を得、デルゲ版大蔵経全巻他二万四千点部の文献を日本に持ち帰っている。

等観は帰国後、大蔵経等を基に『西蔵撰述仏典目録』を著し、日本学士院賞を受賞している。

「西天取経」という言葉がある。「西天」は、文字通り西の空であるが仏教用語では、西方にある天竺の称でもあり西方浄土を表す。従って、「西天取経」は、仏典を求めて天竺に向かう旅のことをいう。多くは『西遊記』の主要部分である三蔵法師（玄奘）が経を求めて西に向かう旅に使われている用語である。

宮沢賢治の作品には、「西天」という言葉がしばしば登場するし、孫悟空や猪八戒、沙悟浄たちが玄奘を呼ぶときの尊称である「師父（しふ）」とう言葉も多く見られる。賢治の子供の頃の愛読書のひとつが『西遊記』であり、この本が賢治に大きな影響を与えたと指摘している比較文学者で賢治研究家の王敏は、賢治と「西天」の関係について次のように記している。

「玄奘が経典の疑問を仏教の原点インドに求めたように、賢治も「西天」への回帰を渇望したのであろう。賢治は郷土岩手を大切にしながら、日本を飛び出し、西域へ、更には宇宙にまで求道した」（王敏『宮沢賢治と中国』2002年）

宮沢賢治の作品の中には、西域の表す地名や語句が多く用いられ、特にチベットをイメージした世界は、仏の世界として書かれる。賢治の「阿耨達池（あのくだっち）幻想曲」の阿耨達池は、南チベットの聖地を指す。賢治は、そうした世界を北上山地と重ねて表現している。

多田等観は、チベットの大蔵経全巻を日本に持ち帰っている。大蔵経とは一切経ともいわれ、仏典一切のことをいう。まさに二十世紀の「西天取経」の人でもある。独自のイメージで「西天」回帰を渇望した賢治の故郷花巻に「釈尊絵伝」等多田等観が請来した仏典等が残されている。不思議な縁を感じる。　（館長　高橋信雄）

行事予定　平成29年8月～平成29年11月

企画展示室

●企画展　「多田等観展」
会期：開催中～８月20日(日)
◇特別展示：宮沢賢治直筆原稿
「雁の童子」
日時：８月１日(火)～８月８日(火)
◇郷土芸能特別演舞
円万寺神楽〔岩手県指定無形民俗文化財〕
日時：８月20日(日)13：30～14：20
●テーマ展　「花巻城展」
会期：９月16日(土)～11月12日(日)
◇講演会：「中世稗貫の城館と鳥谷崎城」
講師：室野 秀文 氏（盛岡市遺跡の学び館）
日時：９月16日(土)13：30～15：00
場所：花巻市博物館　講座体験学習室
◇そのほか展示解説会などを予定

講座・体験学習

【講座】

８月５日(土)	館長講座１「西域・多田等観と宮沢賢治」	
10月７日(土)	館長講座２「花巻城」	
10月15日(日)	古文書講座１	＊初級・中級あり 初級：10:00～11:30 中級：13:30～15:00
11月12日(日)	古文書講座２	

【体験学習】

８月６日(日)	花巻人形絵付け
９月17日(日)	勾玉つくり
９月18日(祝･月)	琥珀玉つくり
10月１日(日)	夢灯りつくり
10月８日(日)	鎧を着てみよう！

※内容に変更がある場合があります。
※時間は古文書講座以外全て13時30分～

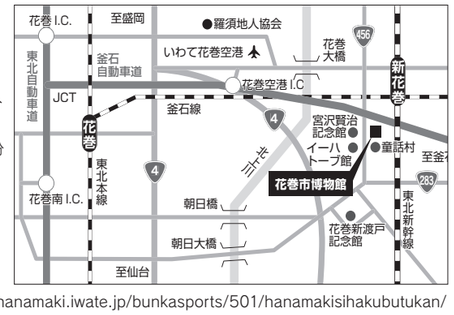
花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松26-8-1
電話：0198-32-1030　FAX：0198-32-1050
開館時間：午前８時30分から午後４時30分まで
休館日：12月28日から１月１日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学　生	250(200)円
	一　般	350(300)円

※（ ）内は20名以上の団体割引料金
※割安な近隣４館共通券もあります。
※特別展示を行う場合、入館料を定める場合があります。

交通案内
■東北新幹線
新花巻駅より車で３分
■東北本線
花巻駅より車で約15分
■釜石自動車道
花巻空港I.Cより車で約５分
■バス
新花巻駅より約５分
岩手県交通 土沢線
イトーヨーカドー行
賢治記念館口 下車



◇ URL http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/hanamakisihakubutukan/

花博コレクション

Hanahaku collection

湯川玉僊「四季唐子遊戯図」
六曲一双／明治18（1885）年
落款「玉僊七十三歳筆」
印章「湯氏」、「智易之印」（共に白文方印）

作者の湯川玉僊（1812～没年不明）は通称を和喜右衛門、名を智易といいます。盛岡藩重臣北家の家臣で、明治時代初期に盛岡から稗貫郡八幡村（現･花巻市石鳥谷町八幡）に移り、明治２（1871）年２月から約１年間、第23区郡長（八幡、好地、新堀、石鳥谷の４カ村を管轄）を務め、明治10年代半ばまで寺子屋の師匠として、子どもの教育にあたりました。

これは、唐子が戯れている場面12点を屏風に仕立てたもので、花鳥は丁寧に描かれ、唐子の色彩も豊かに表現されています。73歳の最晩年の作品と思われます。

玉僊の遺作は少なくあまり確認されておりませんが、大名の居間を飾る屏風絵を手掛けた画人ですので、どこかに遺作が眠っているのかもしれません。

（学芸員　小原伸博）